



ほんものを たべよう

提出日	2/ 8	火	水	木	金
配達日	2/ 15	火	水	木	金
翌々週分配達日	2/ 22	火	水	木	金

2022.2月3 週号

Alter Weekly Order Catalogue

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

乳製品

幸せな牛から搾る、 健やかな牛乳

究極のグラスフェッド牛乳

なかほら牧場

文責 西川 榮郎(安全な食べ物のネットワーク オルター 代表)

国内最高峰の牛乳

なかほら牧場の中洞 正初代牧場長は、拙著「ほんものの牛乳が飲みたい」(日本消費者連盟)で私が理想とした、究極の安全でおいしい牛乳を実現しています。「エサ」「飼ひ方」においてこれほど幸せな牛たちを、私は国内で見たことはありません。農業・化学肥料、遺伝子組み換え、飼料添加物、動物医薬品なども追放できています。製造工程においても「ノンホモ」「パスタライズ」と、隙はありません。

山地酪農のお手本

なかほら牧場は、岩手県の標高700~850mの北上山地の中にあります。牧場の広さはおよそ130ヘクタール(3 牧区/それぞれ電気柵囲い)あります。牛たちは日本在来種の野シバ(日本シバ)を主に、クマザサ、野草、木の葉を自由に食べることができます。まさに山地酪農のお手本です。

牧場の中には自然のままのきれいな山清水が流れていて、牛たちは自由に飲んでます。ほかに井戸水も与えています。

「24時間」「365日」の昼夜自然放牧です。

濃厚なジャージー牛乳

牛の品種はジャージーが主体です。約150頭います。放牧ジャージーの搾乳量は、北海道で現在主流である品種改良されたホルスタインと比べて1/4~1/6(1日当たり6L/ホルスタイン25~40L)しかありません。しかし、その乳質はたいへんおいしくコクがあるのが特徴です。

なかほら牧場にはジャージー種以外に、少数ですがホルスタイン種や、ジャージー・ホルスタイン交雑種もいます。それぞれの良いとこどりのブレンド牛乳



なかほら牧場の中洞 正初代牧場長

は、他に類を見ないおいしさの要因になっています。中洞さんは、牛に草など粗飼料を給餌していますので、文字通り「グラスフェッド」の安全でおいしい最高級の牛乳です。ただし、搾乳時には牛たちのおやつとしてビートパルプ(北海道産)、粉砕焙煎大豆(国産大豆)、小麦圧片(国産小麦)を少量与えています。もし私が中洞さんにあえて改良を求めるとしたら、このおやつをやめるかオーガニックにしてほしいということぐらいしかない素晴らしいレベルです。

牛たちは通常の酪農と比べて、はるかに長寿で健康です。

自然交配、自然分娩、母乳哺育

一般の酪農では仔牛は初乳以外、お母さん牛の母乳を飲むことができません。なぜなら、売りものの牛乳を仔牛に飲ませず、仔牛には安い人工乳を与えているからです。なかほら牧場では生後2ヵ月まで母乳哺育をしています。これはたいへん素晴らしいことです。仔牛は自家繁殖しています。自然交配で、自然分娩、母乳哺育で母牛が仲良しで元気です。

通常の農家経営では牛はせいぜい4~5歳までしか飼育しませんが、なかほら牧場では最高19歳の現役の牛もいました。一頭一頭の牛を本当に慈しんで飼っているのです。

アニマルウェルフェア

ほとんど野生の環境で育てられる牛たちですので、なかほら牧場の牛はストレスフリーです。

2017年12月には一般社団法人アニマルウェルフェア畜産協会の第一号認証を取得しています。アニマルウェルフェアの5原則とは(1) 飢えと渇きからの

解放(自由)、(2) 不快からの解放(自由)、(3) 痛み・負傷・病気からの解放(自由)、(4) 通常行動の自由、(5) 恐怖や悲しみからの解放(自由)です。これらを全てクリアしています。

ノンホモジナイズ、パスタライズ、瓶入り

牛乳の製造工程においては、原乳の乳質を損なわないよう、「ノンホモジナイズ」(クリーム粒子を破壊しない)、「パスタライズ」(低温長時間殺菌法63~65℃30分)を行い、最も安全性の高い容器、ガラス瓶に充填しています。見事な酪農~乳業一貫生産態勢です。

2013年3月に開催されたFOODEX JAPAN 2013にて、「ご当地牛乳グランプリ最高金賞」を受賞しています。このほか数々の賞を受賞しています。

千年家

中洞 正さんは、東京農業大学農学部の学生だった頃、植物学者、植原 恭爾博士が提唱した「山地酪農」の話を聞いて感動し、現在地でその山地酪農を始めました。日本シバ主体の草地に牛を放牧し、一度形ができれば末代までほぼ毎年不変的な酪農ができる千年家(せんねんや)と呼ばれる、人間の真の豊かな酪農のあり方です。牛自らが牧場を拓く、スイス酪農の蹄耕法と呼ばれる牧畜技術と酷似しています。国際情勢の影響を受け、不安定な輸入のエサに頼る近代酪農ではなく、山の植生を活かして、日本シバなどで自給的な酪農を営むというものです。

なかほら牧場以外に、山地酪農を志した農家はピーク時には全国に40~50軒くらいありましたが、その多くは挫折に追い込まれ、今や数軒になっています。なかほら牧場自体も、かつて経営難や3・11の原発事故の風評被害に見舞われました。

賛同者に支えられ

なかほら牧場は現在、株式会社リンク(東京)に支えられ、活動を続けています。2021年6月には地元、田野畑村で代々酪農家の家に生まれ、なかほら牧場で現場責任者をしてきた牧原 亨さんが二代目牧場長に就任されました。

オルターが3・11原発事故直後、取り扱いを休止せざるをえなかった理由、オルター放射能防衛ライン1ベクレル/kgは事故直後、すでにクリアしていましたが、牧場の運営上の理由のため今日まで再開が遅れてきました。

なかほら牧場の 中洞牧場牛乳

●製造者

なかほら牧場(農業生産法人 株式会社 企業農業研究所)

●販売

株式会社リンク

●牧場

130ヘクタール

●牛の品種

ジャージー、ホルスタイン、ジャージー・ホルスタイン交雑種

●牛のエサ

日本在来の野シバ(日本シバ)、クマザサ、野草、木の葉、国産無農薬乾草(北海道産)、水は山清水と井戸水
少量搾乳時のおやつとしてビートパルプ(北海道産)、粉砕焙煎大豆(国産大豆)、小麦圧片(国産小麦)を使用
1日当たり約1kg

●牛の飼ひ方

山地酪農
24時間、365日昼夜自然放牧、自然交配、自然分娩、母乳哺育(2ヵ月間)
アニマルウェルフェア認証あり